

# Active all over the world.

## 東京貿易グループ

第 94 期 事業報告書

2013年4月1日 ▶ 2014年3月31日



TOKYO BOEKI GROUP

# Active all over the world.

東京貿易グループは、「創業の三精神(TOMAS精神)」及び「経営理念」を受け継ぎ、独立系の事業創造型企業グループとして、“東京貿易グループ連邦経営”を展開しております。

## 創業の三精神(TOMAS精神)

1. 困難に打ち克ち努力する精神
2. 開拓者精神
3. 全員経営の精神

## 経営理念

東京貿易グループは、一人ひとりが仕事を通して夢を実現でき、創造性豊かな会社になる。一人ひとりが誇りを持ち、世界に貢献する会社になる。

## シナジー効果を生み出す「東京貿易グループ連邦経営」



## 株主の皆様へ

Message from the CEO

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

東京貿易ホールディングス株式会社は、この2月に財務体質の強化と経営健全性の維持向上を目的として、資本金を50億円に増資しました。今後も独自の経営スタイルである「東京貿易グループ(TB-G)連邦経営」を深化させ、株主の皆様のご期待にお応えできるよう努めてまいります。

さて、当社第94期(2013年4月1日～2014年3月31日)の報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

2013年度における世界経済は、アジア経済が足踏み状態にあるものの、先進国、とりわけ米国を中心に全体として回復基調で推移しました。一方、日本経済は、金融・財政政策の効果が広く波及し、また、公共・住宅投資の拡大に輸出や個人消費・設備投資の回復が加わり、デフレ脱却と本格的な経済再生に向け着実に歩を進めました。

このような経済環境の中、TB-Gにおきましては、「エネルギー・機械産業」「技術・自動車・情報産業」「資源・鉄鋼・資材産業」「医療・生活・科学産業」の4グループにおいて、マーケティングから製造、販売、メンテナンスまで

一貫して専門性の高い独自の事業・サービスの提供を通じ、企業価値の最大化と持続的な成長発展の実現に努めてまいりました。

この結果、当期の売上高は487億80百万円と前期に比べ1割近く増加し、経常利益は34億70百万円と、過去最高益で締めくくることができました。

期末配当につきましては、既存事業ならびに新規事業への積極的な投資のための内部留保を確保する一方、株主の皆様への継続的な安定配当を基本とするとともに、資本金を50億円に増資したことを記念して、1株につき普通配当14円に記念配当3円を加え、合計1株につき17円とさせていただきます。

TB-Gは来期にかけ、次世代へ経営を引き継ぐ重要なターニングポイントを迎えます。グループ各社長のリーダーシップのもと、後継人材が次代の成長に向けて邁進できるよう、足下の経営課題に取り組むとともに、2007年に策定した「30年VISION」というグループの大きな目標に向かって、TB-G連邦経営の発展に繋げてまいります。

株主の皆様には今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2014年6月

売上高	48,780百万円 (前期比 8.9% 増)
営業利益	3,233百万円 (前期比 7.9% 増)
経常利益	3,470百万円 (前期比 14.2% 増)
当期純利益	2,146百万円 (前期比 25.1% 増)



東京貿易グループ  
代表取締役会長  
町田 弘



セグメント別情報

(%は売上高構成比)



**売上高** 16,498 百万円 (前期比 128%)  
**営業利益** 2,537 百万円 (前期比 117%)

**■事業内容**  
 電力・ガス・石油・石油化学など、エネルギー関連業界向けに流体荷役機械および関連機器、ガス関連各種機械、発電関連機器・装置、環境関連機器などの開発・製造・販売を行っています。主力の流体荷役機械は、東京貿易機械とニイガタ・ローディング・システムズの製販一貫体制のもと、優れた製品を世界中のユーザーに提供し、高い評価を得ています。

**■事業概況**  
 原発問題やCO<sub>2</sub>削減の世界的な環境意識の高まりによる石油から液化天然ガス(LNG)へのエネルギーの構造転換や、長期に及んだ円高の是正などを背景に、国内シェアを堅持しつつ海外向けも好調に推移しました。加えて、東日本大震災以降の安全気運の高まりも追い風になり、当グループとしては増収増益となりました。

**売上高** 7,292 百万円 (前期比 111%)  
**営業利益** 939 百万円 (前期比 99%)

**■事業内容**  
 主力製品である三次元測定機は、様々な製品の開発造形から製造、検査、完成までの一連のプロセスにおける計測およびデータ処理作業を総合化して提供。主に自動車メーカーの製品開発力の向上に貢献しています。三次元測定機は、自動化、精密化、そして多様化へと進化を遂げ、世界的評価を得ています。

**■事業概況**  
 政府の景気刺激策、円高の是正・安定化等により三次元測定機の主要取引先である自動車業界の復調が鮮明となりました。しかしながら、競合機の性能向上や価格競争の激化により受注競争は厳しさを増していることから、自動車業界以外への販売拡大と自社開発商品の比率拡大に努めております。また、情報関連産業に関しても自動車業界向けの受託開発等が増加し、当グループ全体としては増収となりました。

**売上高** 14,298 百万円 (前期比 91%)  
**営業利益** 120 百万円 (前期比 73%)

**■事業内容**  
 独自の事業モデルのもと、製鉄原料・副原料、一般炭、製鉄用耐火レンガなどを鉄鋼・エネルギー業界に供給しています。さらに、自動車用鋼板をはじめとする各種鋼材は、自動車メーカーにとって欠かせない原材料となっています。また、特に耐火レンガにおいては、中国での合併事業により大きな成果をあげています。

**■事業概況**  
 資源事業においては市況の低迷と国内電力料金の引上げ等により、主力のマンガン事業が大幅な減収となりました。鉄鋼事業は国内の高炉メーカーが復調するものの、豪州向け自動車用鋼板輸出が低迷し、また中国の生産過剰による需給の緩みから、利益確保に苦戦しました。さらに、資材事業では円安による輸入耐火物の価格競争力が低下し、一部国産品に代替されるなど厳しい状況が続きました。こうしたことから、当グループ全体としては大幅な減収となり、コスト削減に努めたものの減益を余儀なくされました。

**売上高** 10,941 百万円 (前期比 111%)  
**営業利益** 770 百万円 (前期比 99%)

**■事業内容**  
 住宅用設備機器、医療機器、理科学機器、OA機器、セキュリティ機器など、多岐にわたる製品の開発・製造・販売を行っています。とくに、医療機器分野では、小型の臨床検査用自動分析装置が世界60カ国で販売されるなど、優れた実績を誇ります。今後は、ラインナップの充実や周辺機器の販売など、一層の事業化を進めていきます。

**■事業概況**  
 セキュリティ関連事業においては、セキュリティカメラシステムの需要が拡大し、国内拠点網を活用したトータルサービスの提供により売上、収益を大きく伸ばしました。医療機器事業では、主力商品である臨床試験用中小型自動分析装置の市場に大手医療メーカーが新製品を投入したことや、海外市場で中国製などの低価格品が多く出回ったことから競争が激化しました。一方、ロシア市場では国家予算付与の低迷と需要一巡から理科学機器の輸出が低迷し、これをエンジン溶接機等の産業機器の輸出でカバーを図りました。

グループ経営戦略



東京貿易ホールディングス株式会社  
取締役副社長  
グループ経営戦略担当  
東京貿易機械株式会社  
代表取締役

五阿弥 英也

東京貿易グループ(TB-G)連邦経営は、各事業会社が主体性を持ちながら、“For the Group”を基軸に有機的に結びついた独自の経営システムです。TB-G連邦経営のスタートから8年が経過、グループ全体の経営基盤や収益状況は安定し、財務的にも実質無借金経営が実現できました。2015年4月からスタートする第4次中期経営計画では、これまで培った経営資源をフルに活用して、2007年に策定した「30年VISION」というグループの大きな目標に向かって成長を加速させます。具体的には、圧倒的な強みを有するローディングアーム事業など既存事業の基盤強化を図ると共に、グループシナジーが見込まれる分野を中心に、M&Aや海外進出などを通して新規事業に挑戦してまいります。

“Active all over the world”をキーワードに、グループ各社が業界No.1を目指し、グループ総合力の向上に取り組んでまいります。



グループ新経営システム戦略



東京貿易ホールディングス株式会社  
取締役副社長  
グループ新経営システム戦略担当  
東京貿易テクノシステム株式会社  
代表取締役

上田 俊昭

グループ新経営システム戦略では、東京貿易グループ国内11社全社共通基幹システムTIS(TOMAS Information System)の完成に続き、東京貿易グループ全社共通のグループウェアとして位置付けるクラウド型サービスOffice365(マイクロソフト社製)を立ち上げました。従来、各社それぞれ個別に運用されていたグループウェアを統一化することによって、全社ポータルによる東京貿易ホールディングスの情報発信、全社員への速やかな伝達、情報の共有、スケジュールや設備予約の共有など、従来から遥かに利便性を上げることが可能となり、グループ全体の事業活動に資するものとなりました。加えて、近年業務効率向上のための手段としてスマートフォンやタブレット等のモバイル端末によ

る出先からの情報伝達や情報共有も4月から開始し、更なる利便性を上げ、業務効率の向上に努めます。今後はまだ運用されていない便利機能も利用して、フル活用してまいります。



グループ新規商品・新技術戦略

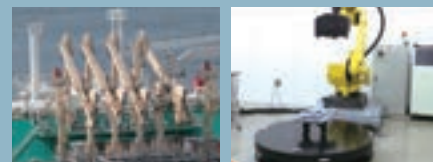


東京貿易ホールディングス株式会社  
取締役副社長  
グループ新規商品・新技術戦略担当  
ニイガタ・ローディング・システムズ株式会社  
代表取締役

井口 孝夫

東京貿易グループ(TB-G)は、グループ各社の専門分野において付加価値の高い商品・サービスを提供し、既存事業の基盤強化に努めてまいりました。これまでは、マーケットの成長に追従するかたちで各社単独での新規商品・新技術開発が中心となっていました。TB-Gにおける開発計画の一元管理により、グループ内に情報をフィードバックするだけに留まらず、各社のポテンシャルを組み合わせた共同開発を促進させ、新しいグループシナジーの可能性を生み出します。また、新規事業支援制度の運用開始により、各社の開発件数の増加と開発スケジュールの短縮が見込まれます。これらの環境整備により、新規商品・新技術開発を加速させ、TB-Gの持続と成長の発展に寄与してまいります。

グループシナジー



エネルギー・機械

技術・自動車・情報



資源・鉄鋼・資材

医療・生活・科学

グループ新規事業戦略



東京貿易ホールディングス株式会社  
取締役副社長  
グループ新規事業戦略担当  
株式会社ティービーアイ  
代表取締役

加藤 富弘

東京貿易グループ(TB-G)の持続と企業価値の最大化を図るために、新規事業の創造が急務となっています。今後、情報・環境・医療・農業・福祉の各産業など、これから成長が期待されている分野を中心に新規事業の開拓に挑戦してまいります。その場合、新規事業の開拓にあたっての判断基準は、以下の3点に置きたいと考えています。  
①コンプライアンスに合致し、世の中に貢献できるものであること  
②将来的に100億円の売上げが期待できるものであること  
③トレーダーとしてではなく、グループの存在価値が認められて、参画できるものであること  
投資の形態には、新会社設立、M&Aなど色々ありますが、具体的Projectに応じて最適な形態を選択

していきたくて考えています。いずれにしても、単なる投資に終わらせず、TB-G連邦経営の一角を占める中核事業の創造に取り組んでまいります。





## グループトピックス

## エネルギー機械産業グループ

## 国内グループ 東京貿易機械株式会社

## FMC Technologies とのライセンス契約締結

2013年9月、当社の主力商品・ローディングアームのライセンサーであるFMC社とのライセンス契約更改の調印式が、FMCフランス本社で執り行われました。

東京貿易グループはローディングアーム等の製造・販売に関して、50年以上にわたってFMC社からライセンスを受けています。

今後も、FMC社とのパートナーシップの下、チクサングループの一員として、その確かな技術と商品を世界中に届けていく所存です。



調印式にて  
(左:ポイドビンFMCフランス社長、右:五阿弥社長)

## 国内グループ ニイガタ・ローディング・システムズ株式会社

## 大津波対策

大地震発生時の大津波時にタンカーの緊急荷役停止及び離棧が必要となります。当社が開発したローディングアームの先端に取付ける緊急離脱装置(ERS)は緊急時に遮断弁を閉止し、緊急離脱カップラ(ERC)を作動させ、数秒でローディングアームをタンカーから安全に切り離すことができるシステムです。

海上保安庁の行政指導指針の一部改正があり、大型タンカーバースにERSの装備が記載されましたので、今後の需要増が期待されます。

写真は昨年度長岡工場で行われたLNG用ローディングアームに取付けられた緊急離脱装置(ERS)の作動試験の風景です。



緊急離脱装置(ERS)の作動試験の風景

## 国内グループ 東京貿易メカニクス株式会社

## 新たなエネルギー市場参入への事業開発

当社は基盤事業のLPG機器の販売・メンテナンスに加え、水素エネルギー市場への参入、事業開発を進めています。2013年度は「水素分離膜」を製作しました。2014年度は早期事業化を目指し、水素ステーション向けに水素供給設備の開発を進めております。水素分離膜を応用した「水素発生装置」の技術を米国から輸入し、水素圧縮機とユニット化する計画です。2014年2月に開催されたFC EXPOに同商品を出展し、大きな反響を呼びました。



FC EXPOにて駐日アメリカ大使ケネディ氏と

## 技術・自動車・情報産業グループ

## 国内グループ 東京貿易テクノシステム株式会社

## 2013年11月 TTS20周年記念プライベートショー開催!

1994年に創立した当社はお蔭様で20周年を迎えることができました。11月5日から8日まで開催したプライベートショーでは200名を超えるお客様に、製品はもとより当社のプレゼンスを示すことができました。また、懇親会ではお取引先各社の役員様・ご担当者様より祝辞や激励のお言葉をいただきました。

この度のプライベートショーでは多くのお客様に対して製品と新技術をアピールすることができ、また当社社員の元気な説明や応対に大変好評価をいただきました。

今後はこの実績を基に更にお客様との関係強化を図り、品質目標である「お客様に喜ばれ満足される製品を提供する」を実践してまいります。



お客様に自動車のクレイモデルの切削加工を実演

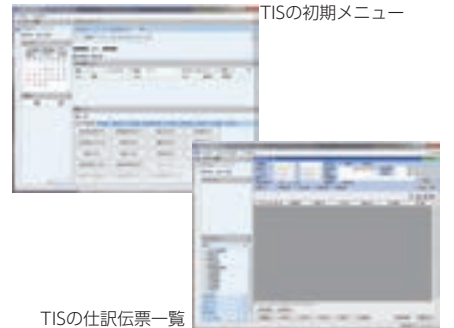


海外からの来賓の方と懇親会

## 国内グループ 株式会社ティービックス

## 『TISパッケージソフト』の外販に向けて

当社では、東京貿易グループ全社共通基幹システムである『TISパッケージソフト』の完成度を高め、利便性を向上させる保守作業と並行して、外販に向けた商品化への取り組みに着手しております。自グループ内、全11社で稼働している実績を強みに、TB-Gと同規模・同様のホールディング政策を展開する外部企業に積極的な営業活動を開始致します。



TISの初期メニュー

TISの仕訳伝票一覧

## 国内グループ テービーテック株式会社

## 3Dプリンター(Arcam)

3DプリンターArcam(スウェーデン製)日本総代理店HTLからの東海地区販売権を取得しました。Arcamは電子ビーム方式を採用している世界唯一の3Dプリンターです。真空中で粉体金属(主にチタン)に電子ビームを照射・熔融し造形します。Arcamはレーザー方式に比べ照射深度が深く均質な金属熔融が可能で、残留応力が少ない硬度の高い製品を短時間で作成することができる特長があります。すでに欧州中心に医療分野、航空分野での多くの実績があり、日本ではこれから成長が期待される商品です。



製品例(人工関節)

Arcam本体

## グループトピックス

## 技術・自動車・情報産業グループ

## 海外グループ TOKYO BOEKI NORTH AMERICA, INC.

## 米国市場の復活・自動車各社の投資拡大とベクトロン拡販

2013年米国市場は、漸く不況の長いトンネルを抜け、2008年のリーマンショック前の状態に戻り、顧客の設備投資も復活しました。自動車販売台数は、2013年の累計販売が2007年以来の高水準となり、ドル円レートも1月末から円安ドル高傾向で推移し、2013年の平均レートは、前年度と比べ2割以上円安が進行しました。主力客先であるトヨタ自動車の設備投資も拡大したことから、主力商品のベクトロンの販売は大幅に増加しました。12月には新モデルの試作機評価会をケンタッキー工場で実施し、多くの関係者を集め、2014年度の投資対象アイテムとして注目を浴びました。



戦略モデルのベクトロンV6新モデル

## 海外グループ TBTS (THAILAND) CO., LTD.

## 市場拡大、新規顧客開拓を目指して

世界経済の影響や天災、政治混乱など、決して一本調子の右肩上がりではないタイ市場ですが、それでも囑望されるASEANの中核として、長期的には成長傾向であることは間違いありません。更に垂直・水平展開を加速させていく大手日系企業。新たに進出してくる日系や外資サプライヤー。自力をつけ拡大するLocal企業。日々、変化、拡大していく市場の中であって、これをチャンスと捉え新規顧客開拓を追求していくために、TTSの協力を得ながら全員営業で頑張っています。



Manufacturing Expo13に出展し、タイ市場で初めてとなる非接触自動測定Systemを展示

## 海外グループ 東京貿易技研(広州)有限公司

## 広州でデザイナーズナイト主催

2013年11月21日広州において当社と広州美術学院工業設計学院主催で「2013中国(広州)国際自動車展覧会・設計之夜」を開催致しました。自動車メーカーと広東で自動車デザインを専攻する学生達との交流を目的とした同イベントでは、関係者約200人が参加。学生の皆様には、自動車デザインに対する興味と理解を深めていただくことができました。今後も、三次元測定機・加工機のメーカーとして、クライアントの皆様と一緒に、デザインを通じて共通の夢と未来を創っていきたくと考えています。



学生が製作したスケールモデル

## 資源・鉄鋼・資材産業グループ

## 国内グループ 東京貿易金属株式会社

## 中国合併会社における生産効率の向上

中国合併会社の「北京博瑞東貿」では、3S店の修理工場において、トヨタ方式の板金作業ラインと作業管理システムを導入し、作業効率が約2倍にアップしました。また「済南魯東耐火」では、中国で第一基目となる最新鋭の「3,600 t 油圧式真空プレス」を新規導入し、年間6,200~7,200トンの増産と品質向上が可能となりました。済南魯東耐火に対しては増資を実施し、当社の持分比率を28%に高め、協力関係を一層強化しました。



北京博瑞東貿修理工場の板金作業ライン

済南魯東耐火の3,600 t油圧式真空プレス

## 海外グループ TOKYO BOEKI (AUSTRALIA) PTY. LTD.

## アグリビジネスへの取組み

人々が暮らしていく中で欠かせない農作物、その生産を支える肥料・飼料と原料確保も重要な課題となっております。今後益々人口が増えていく中、肥料・飼料需要が伸びていくことは確実ですが、原料産出国での輸出規制や政情不安などの危険性も孕んでいます。当社では、既存の原料ソースだけでなく、新たな供給元の開拓を進め、アグリビジネスへの取組みを深化させてまいります。



採掘後一次選別されるナウル産リン鉱石

## 海外グループ 東京貿易(中国)有限公司

## 国際市場を見据えた耐火物事業

昨年来、東北の新規工場製耐火物の日本向け未開拓領域への販売に成功しました。当該工場は年間生産能力が10万トンを超える先進設備を有し、主な販売先としては韓国、アメリカ、ドイツ、インドなど世界各国との取引実績があり、輸出比率は80%の技術力のある工場です。今後は当該社との連携を強化し、中国国内・日本市場の開拓は言うまでもなく、海外市場展開を目指してまいります。



2,500mt口ロボット付油圧プレス

## 海外グループ 東京貿易(北京)有限公司

## 不定形輸出拡大へ一歩前進、クロム事業の樹立へ

当社は、耐火物、副原料の分野に注力した事業展開を行っております。耐火物事業では合併会社を中心としたしっかりとしたネットワークを築き、転炉関係、鍋精錬、コークス炉関係に高品質の商品を提供しております。また、新たに不定形商材を製鉄所向けに展開を図ると共に、ピッチ及び酸化クロム事業を推進しております。耐火物事業の業界No.1を目指し、新規事業を進展させてまいります。



コークス炉用フリュウ煉瓦



医療・生活・科学産業グループ

国内グループ **株式会社ティービーアイ**

メーカー商社の実現に向けて

当社は、韓国SAMSUNG TECHWIN社とのパートナーシップのもと、セキュリティシステム事業を核とし、事業を通じ社会の安全・安心に貢献してまいります。また、事業領域の拡大を図るため、デジタルインカムシステム事業を立上げ2013年10月に先進のデジタルインカムシステム「クリアトークカム」を市場に投入致しました。当社は、トータルサービス、メーカー商社の実現に向け、一歩ずつ前進してまいります。



サムスンテックウィン社製セキュリティ製品

国内グループ **東京貿易テクノロジー株式会社**

ロシア建設機械展に出展

当社はTB(RUS)と共に、2013年6月初旬にモスクワで開かれたロシア最大の建設機械展示会“CTT Expo”に株式会社諸岡、デンヨー株式会社と組み出展しました。

諸岡はダンプ・キャリア(クローラー・トラック)では日本最大手のメーカーで、日本の大手建設機械メーカーにもOEM供給を行っています。

ロシアではパイプラインの補修溶接用にエンジン溶接機の需要が伸びており、当社のコンスタントビジネスの柱となっています。

当社はダンプ・キャリア単体の他、溶接機と合わせたパッケージ販売も展開、同展示会では溶接機と合わせダンプ・キャリアの実機を展示しました。

当社はロシア・エネルギー産業向けに様々なソリューションを提供しています。



CTT Expoでも注目の当社ブース

国内グループ **東京貿易メディシス株式会社**

生化学自動分析装置の新製品開発に着手

当社は累計販売台数5,700台以上の販売実績を誇る主力商品ビオリス24iシリーズの後継機種、ビオリス30iの開発に着手しました。基本コンセプトである、「コンパクトで高性能、高品質」を継承しながら、処理スピードアップ、機能をより向上させた新製品を2015年量産を開始する予定です。常にお客様視点に立った製品開発を進め、前期販売を開始した、ビオリス15i、ビオリス50iの3機種のラインナップにより、更に顧客層を広げ、メディカル事業の拡大を目指します。



新製品 ビオリス30i開発に着手

海外グループ **TOKYO BOEKI(RUS) LTD.**

第8回ロシア科学フェスティバルに参加

当社はロシアCIS諸国の教育と科学の発展のため、モスクワ国立大学を中心とした諸大学の各種イベントにスポンサー参加しています。モスクワ国立大学は1755年に設立、既に260年の長い歴史を持ち、ノーベル賞受賞者も多数輩出するロシアを代表する学府です。このモスクワ国立大学のサドブニチー学長の発案により、2006年から科学フェスティバルがモスクワで始まりました。当時はモスクワ国立大学だけのフェスティバルでしたが、いまではロシア全土で催されるロシア科学フェスティバルにまで大きくなりました。

当社はこの科学フェスティバルに第1回からメインスポンサーとして参加し、昨年で第8回を数えました。当社は常にパートナーの未来を思い、パートナーの夢とともに歩んでいます。



講演中のサドブニチー学長



フェスティバル会場

海外グループ **TOKYO BOEKI( U.S.A.), INC.**

環境に優しいエネルギー事業で社会に貢献

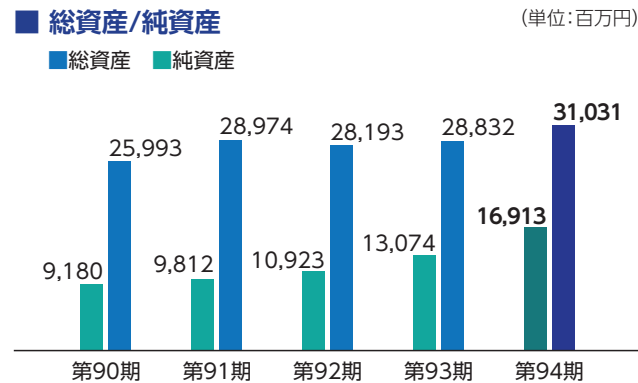
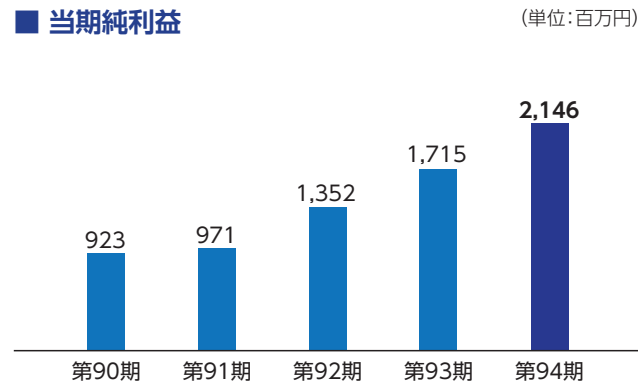
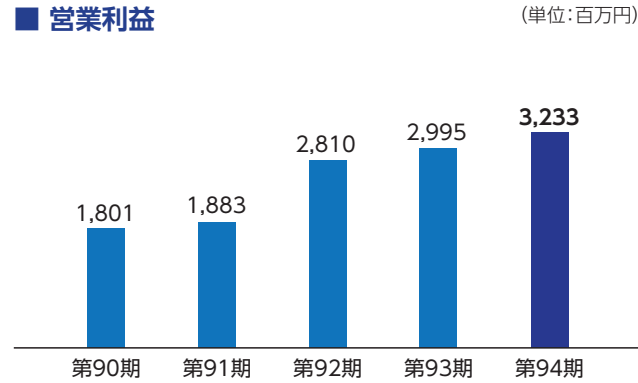
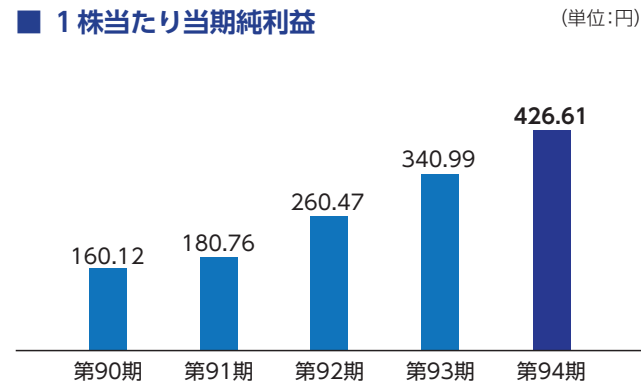
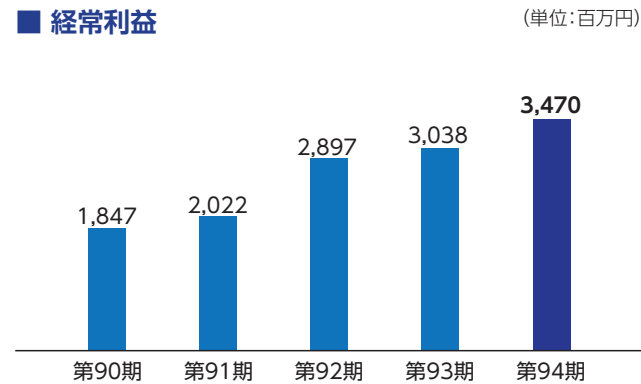
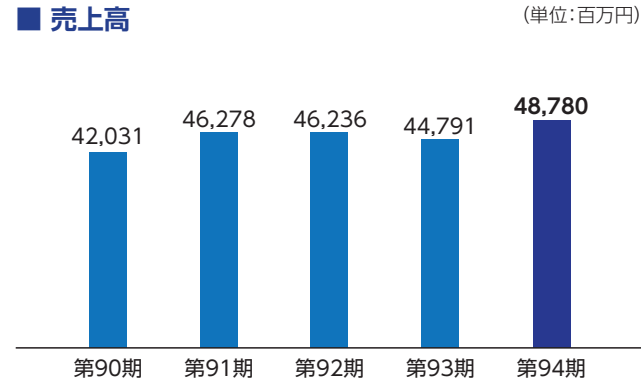
昨今の環境問題やエネルギー高騰へのソリューションとして、高効率冷暖房機器(ヒートポンプ)による部分空調の輸入販売や、太陽光や風力によるクリーンエネルギー製品、超省エネ照明灯などを市場へ紹介することにより、米国社会に向けて、省エネ及び環境に優しい生活を提案しています。更に米国拠点の地の利を活かして、東京貿易グループ会社とも協力し合い、部品調達や販売などのグローバルな事業展開も同時に進めています。



米国で販売中のMonitorブランドのヒートポンプ

決算の概要

決算ハイライト



連結財務諸表

■ 連結貸借対照表 (単位:百万円)

科目	当期 2014年3月31日現在	前期 2013年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	23,965	22,188
固定資産	7,066	6,643
有形固定資産	2,367	2,416
無形固定資産	779	905
投資その他の資産	3,918	3,321
資産合計	31,031	28,832
<b>負債の部</b>		
流動負債	11,973	13,570
固定負債	2,144	2,187
負債合計	14,118	15,757
<b>純資産の部</b>		
株主資本	16,541	13,362
資本金	5,000	510
資本剰余金	—	18
利益剰余金	11,733	13,299
自己株式	△ 191	△ 465
その他の包括利益累計額	259	△ 358
少数株主持分	112	70
純資産合計	16,913	13,074
負債・純資産合計	31,031	28,832

■ 連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	当期 2013年4月 1日～ 2014年3月31日	前期 2012年4月 1日～ 2013年3月31日
売上高	48,780	44,791
売上原価	36,266	33,434
売上総利益	12,514	11,357
販売費及び一般管理費	9,280	8,361
営業利益	3,233	2,995
営業外収益	275	224
営業外費用	39	180
経常利益	3,470	3,038
特別利益	331	—
特別損失	43	—
税金等調整前当期純利益	3,757	3,038
法人税等	1,579	1,286
少数株主損益調整前当期純利益	2,177	1,751
少数株主利益	31	36
当期純利益	2,146	1,715



## 会社概要 / 株式の状況

### ■ 会社概要 (2014年3月31日現在)

東京貿易グループ	東京貿易ホールディングス株式会社 及びグループ19社
設 立	1947年(昭和22年)10月30日
資 本 金	50億円(株主資本165億円)
従 業 員	954名
本 社 (純粋持株会社)	東京貿易ホールディングス株式会社 〒104-8510 東京都中央区八丁堀2丁目13番8号

### ■ 東京貿易ホールディングス株式会社 役員紹介 (2014年6月27日現在)

#### 取締役

代表取締役会長兼社長	グループ経営統括	町 田 弘
取締役副社長	グループ経営戦略担当	五阿弥 英 也
取締役副社長	グループ新規商品・新技術戦略担当	井 口 孝 夫
取締役副社長	グループ新経営システム戦略担当	上 田 俊 昭
取締役副社長	グループ新規事業戦略担当	加 藤 富 弘
常務取締役	グループ経営管理本部 グループ事業推進本部 統括	木 田 郁 朗

#### 監査役

常勤監査役	毛 塚 利 彦
監 査 役	伊 藤 宣 實
監 査 役	沼 田 安 弘

### ■ 株式の状況 (2014年3月31日現在)

発行可能株式総数	38,519,920株
発行済株式総数	普通株式 5,045,165株 A種優先株式 1,700,000株
株主数	121名

株主名	持株数	持株比率
東京貿易株式会社	1,700千株	25.20%
東貿持株会	846千株	12.55%
東京海上日動火災保険株式会社	498千株	7.38%
トア再保険株式会社	408千株	6.05%
株式会社三菱東京UFJ銀行	249千株	3.69%
日本生命保険相互会社	120千株	1.78%

※ 東京貿易株式会社の1,700千株についてはA種優先株式になります。

### 当社グループ ホームページのご案内

ホームページでは当社の最新ニュースや事業紹介など  
様々なコンテンツを掲載しております。

<http://www.tokyo-boeki.co.jp/>

